

=====**第2回子育てサイエンス・カフェ報告(9月18日実施)**=====

2021年9月18日、家政学部児童学科の浅野由子先生に「SDGs と子ども—家庭・地域・地球環境から—」というテーマでお話しをさせていただき、その後参加者の方とのディスカッションの時間をもちました。Zoomでの開催でしたが、8月に協定を締結しました北海道日高管内の方々も含め80名以上の方にご参加いただくことができました。

2015年に国連の提唱により持続可能な開発目標(SDGs)が制定され、地球環境の持続可能性の維持に貢献することが世界中の人々に課せられました。地球の未来を創造することは、子どもたちの未来を創造することと同義であり、持続可能性と子どもの環境をリンクすることが求められています。浅野先生は、SDGs世界ランク1位となったスウェーデンで15年にわたり研究・教育活動を実践されてきました。そのご経験を踏まえ、スウェーデンのSDGsの取り組みをご紹介下さり、国際的視点から子どもや地球環境の未来を考えるために我々が何をすべきかを問いかけてくださいました。右に内容をまとめます。



発表者の浅野由子先生



Zoomを利用した遠隔での発表でした。

地球温暖化は、我々の生活に深刻な影響を及ぼしており、各国が協力して、環境、経済、社会のバランスのとれた地球環境を維持するための努力をしなければ、子どもたちの未来の環境を守ることができません。それでは、子どもの未来のために大人は何ができるのでしょうか。日本でも1994年に批准した「子どもの権利条約」では、子どもには<生きる権利> <育つ権利> <守られる権利> <参加する権利>の基本的な権利の他に、<遊ぶ権利> <意見表明権>などもあります。スウェーデンでは、子どもの権利を重視しています。そして、子どもの権利を守るための問題に大人は対処する義務があるという観点から、子どもの環境を考えることが実践されています。スウェーデンは自然が豊かな国であることから、自然を大事にすることを、教育の中で実践的に学ぶ取り組みがなされています。教科横断的なアクティブラーニングが多くおこなわれています。また、ペットボトルを回収すると、お金が返ってくるというシステムや、春を迎える頃に皆でごみ拾いをするように、子どもたちは日々の生活の中で当たり前を楽しみながらリサイクルの習慣を身につけます。学校教育だけでなく、日々の生活の中で当たり前環境を守る意識が育っており、それを基盤にしているので、環境を守るために何をすべきかを、子どもが自分で考え実践できるようになっています。

SDGsの取り組みを子どもとともに実践していくことは、特別なことをするのではなく、子どもと大人との関係の中で子どもが主体的に活動できるようにすることだということです。そして、子どもの<遊ぶ権利>と<意見表明権>が尊重されていることが、その下地となっているのです。

(文責：心理学科 塩崎尚美)

**次回の子育てサイエンス・カフェは！  
次ページをご覧ください！**

## 次回の子育てサイエンス・カフェは！

「心理実験から紐解く親子

～親の感受性・応答性を検証する～」

講師：人間社会学部心理学准教授 麦谷綾子

こどもの育ちに関わる研究手法は種々ありますが、実験心理学的なアプローチを用いることで発達を定量的・科学的に評価することが可能です。またその実験手法も、行動観察から生理計測まで研究目的や対象者に応じて多様な選択が可能です。今回のカフェでは、乳幼児とその親を対象に行きたいいくつかの心理実験と、そこから見てきた親の感受性・応答性について紹介したいと思います。

ぜひ、ご参加ください！！

- 開催日：2021年12月17日(金)  
12:40～13:10
- 申込フォーム (URL・QR どちらでも申込できます)  
<https://forms.office.com/r/g3TPdCExBH>



申込期間：12/17(金) 12:40まで

## 「板橋区立中央図書館と日本女子大学連携事業」 のご紹介

2021年11月5日(金) 10:30～11:30 板橋区立中央図書館に於いて、板橋区在住の3歳までのお子さんと保護の方々を対象に「親子読み聞かせ講座」が開催されました。

講座は2部構成で、家政学部児童学科の和田直人教授が「だれでも作れる手作り絵本」をテーマに、そして根津知佳子教授が「子どもと楽しむ音遊び」をテーマに講師として参加されました。

児童学科の学生による手作り絵本の読み聞かせや音遊びも行われ、参加した親子は、とても楽しいひとときを過ごしていました。

【板橋区立図書館(中央図書館のご案内) HP】

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/library/toshokan/2000494/index.html>



当日の様子

### <みんなの避難所教室>

====～赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳児救護所」を知っていますか?～====  
(10月30日実施)

2021年10月30日(土) 10:00～11:30 オンライン開催にて「第1回妊産婦・乳児を守る避難所をつくりたい<みんなの避難所教室>～赤ちゃんとお母さんを守る「妊産婦・乳児救護所」を知っていますか?～」(講師：家政学部住居学科教授平田京子)を文京区社会福祉協議会のご後援をいただき、開催しました。当日は、文京区内の子育て家庭の方7名、文京区在住・在勤の方5名、本学学生11名(妊産婦・乳幼児救護所ボランティアチーム学生を含む)、本学教職員・卒業生等関係者7名が参加しました。

首都直下地震の発生確率は70%(30年間)。大地震発生1日後、東京都内の避難所で生活する人数は、約338万人。小さいお子さんのいる家族の避難と避難所生活は大変なことが予想されます。

文京区は、妊婦、0才の赤ちゃんとお母さんを守るための避難所「妊産婦・乳児救護所」を日本で最初に計画、4大学を指定しました。文京区民だけでなく、帰宅者・区外の妊産婦も受け入れる避難所。全国でも実績が少なく、計画や準備が課題です。まずは、講師より救護所はどこなところなのか、日本女子大学救護所の内部や生活のための備蓄物資などを解説しました。今回の講座では、みんなで準備状況を知り、一緒に妊産婦・乳児を守る避難所を考え、避難所を支援したい人、小さいお子さんのいるご家族、救護所や避難所ライフを知りたい人、いろいろな人と一緒に交流することも目的としています。このため、講演の後、参加者のみなさんに、自己紹介も含め、ご質問やご意見を伺う時間を設け、様々な視点からの活発な意見交換が行われました。いただいたご意見を基に、今後文京区とも調整し、より良い避難所運営に活かしていきたいと思っております。

今後、数回のシリーズで開催し、次回は「安心できる「妊産婦・乳児救護所」をみんなで作っていこう」を3月開催予定です。

